

肝疾患患者に対する就労支援の在り方と肝疾患コーディネーターの有効活用に関する研究

分担研究者：坂本 穰・山梨大学医学部附属病院肝疾患センター・准教授

研究要旨：これまでの研究で、肝炎患者には、就労肝炎患者が抱える就労の問題は、単に就労が困難であるという以外に心理的・社会的な問題をも包括した複雑な状況があることが明らかになった。そこで、これまで養成してきた多職種「肝疾患コーディネーター」のグループワークやパネルディスカッションにより、自身ができること、今後求められる活動をまとめ、国や地方自治体の指針として示すよう提言した。また、実際に肝疾患コーディネーターを相談者として起用することを試み、その成果を検証した。さらに、他職種にわたり、経験年数・知識・技術が異なる肝疾患コーディネーターが、就労支援の現場において活用できるマニュアルを事例集とともに作成した。

研究協力者

山梨大学医学部看護学科基礎臨床看護学
講師 古屋洋子
山梨大学医学部附属病院肝疾患センター
看護師(相談員)有園晶子

A. 研究目的

肝炎患者の就労に関する問題は、当研究班における相談事例の解析から、就労に関する制度利用のみならず、心理的な要因・通院に関する問題など多岐にわたることが明らかになっている。そこで当センターでこれまで養成してきた、市町村保健担当者、保健師、看護師、MSW、社会保険労務士、薬剤師、栄養士、臨床検査技師など多職種の「肝疾患コーディネーター」によるグループワークやパネルディスカッションにより、自身が活動可能な内容や今後求められる活動内容について明らかにし、実際に、相談者として起用することで活動可能かどうかを検証することを目的とした。

B. 研究方法

1) 肝疾患コーディネーター資格取得者の意識調査～グループワーク

これまで、肝疾患コーディネーター資格取得者を対象に、スキルアップ講座を開催してきたが、この際、就労支援にあたり、自身が実施可能な点や、支援に対して必要な事項を討論し、今後の活動に資する情報を得ることとした。

2) 多職種にわたる肝疾患コーディネーターによる、パネルディスカッション

医師・保健師・社会保険労務士・市町村担当者・県行政担当者による、パネルディスカッションを行い、肝疾患患者を支えるために必要な活動につき、討論し聴講者を含めた参加者の情報共有を行った。

3) 実際の就労支援の問題点を検討するため、肝疾患コーディネーターが相談対応者となり、就労支援に関する相談会を開催し実態を把握した。

(倫理面への配慮)

調査にあたっては、個人情報に十分配慮するとともに、山梨大学医学部倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果

1) 肝疾患コーディネーター資格取得者の意識調査～グループワーク

肝疾患コーディネータースキルアップ講座時に、肝疾患に関する情報提供ののち、職種に関係なく振り分けたグループで、自身が肝疾患患者に対して可能な点、また他が可能であると思われる点などについて討論し、グループごとに発表した。テーマは、

(1) まだ検診を受けていない方々への対応はどうするか

(2) 「肝炎」をわかっているにもかかわらずまだ治療を受けていない方への対応は?

(3) 肝炎患者さんに必要なサポートは?

として、各グループで討論し意見をまとめたうえで発表した。

様々は意見が出されたが肝疾患コーディネーターは、所有する資格や経験や知識も異なり、自身のおかれた立場が異なるものの、肝炎患者を支えるために、それぞれの立場に応じた活動が可能であり、ある程度の役割を付与することで自信をもって活動することが可能であることが判明した。特に資格取得を契機に活動を活性化し、肝疾患コーディネーターの役割を明確することが必要であることが確認された。そこで、今後は、当県では、肝疾患コーディネーターの所属している団体や位置情報を公開し、ひろく県民に利用していただくことを今後の課題とし、本報告をもって、国や地方自

治体から、「肝疾患コーディネーター」の肝炎医療コーディネーターの基本的な役割や活動内容等について示すよう提言した。



肝疾患コーディネーターのグループワーク

テーマ1： まだ検診を受けていない方々へはどう対応するか？

- ✓ 肝炎検診の通知を市町村から出してもらう
- ✓ 定期健診時に追加する、追加を勧める
- ✓ 検診無受診者に個別勧奨を行う、電話やインパクトのある方法
- ✓ 出前講座や無料案内・申し込み・受付
- ✓ 無料検査を一般化する。行政へ働きかけ
- ✓ 労働衛生法の改正
- ✓ 肝炎を患った芸能人の起用、広報
- ✓ 受診方法の報道
- ✓ 新聞やテレビ媒体の利用、肝炎検査の重要性の周知
- ✓ パンフレットの使用
- ✓ 肝炎ウイルス感染症の案内を外来に張りだし、検査勧める
- ✓ 肝炎・肝硬変の認知度高める
- ✓ 肝炎キャラクター・肝炎の歌・肝炎のCM
- ✓ 商工会やPTAでの機会
- ✓ 肝炎ウイルスキャリアの家族受診
- ✓ 検診や献血時に肝炎のことを知ってもらう時間を設ける
- ✓ 肝炎治療により完治した方に未治療者・未検査者へ働きかけてもらう

受けやすい
検診

様々な
広報

患者・家族へ
の働きかけ・
ピアサポート

肝疾患コーディネーターのグループワーク

テーマ2： 「肝炎」とわかっていてもまだ治療を受けていない方への対応は？

- ✓ 治療していない理由を尋ねる
- ✓ 肝炎を理解しているか尋ねる
- ✓ 仕事・日常生活・治療面での不安や疑問解消の環境整備
- ✓ 検診→検査への受診勧奨、専門医の受診勧奨
- ✓ 意識づけ：肝炎になるとどうなるのか知ってもらう
- ✓ 治療すれば治ることを知ってもらう
- ✓ 日進月歩の最近の肝炎治療法の説明
- ✓ 肝炎に関する最新情報の提供
- ✓ 古い固定観念の除去（インターフェロン・副作用・就労継続の問題）
- ✓ 治療への不安（痛い、金銭面）
- ✓ 検診異常の通知の際に肝炎・肝がんの最新治療を知らせるパンフレットを配る
- ✓ 治療を行うことが容易であることの啓発活動
- ✓ センターでの相談会を周知する
- ✓ 肝炎が悪化するとどうなるのか知ってもらう
- ✓ 町の検診等の機会を利用して呼びかけ
- ✓ 相談会の積極的な開催
- ✓ 相談にみえた方のその後の様子の追跡
- ✓ 無料相談会の開催・積極的利用を促す
- ✓ 治療しながらしごとが継続できることを知らせる
- ✓ 医療費助成の積極的PR

なんで
治療しないのか
理由を調査

治療すれば
治ることの啓発

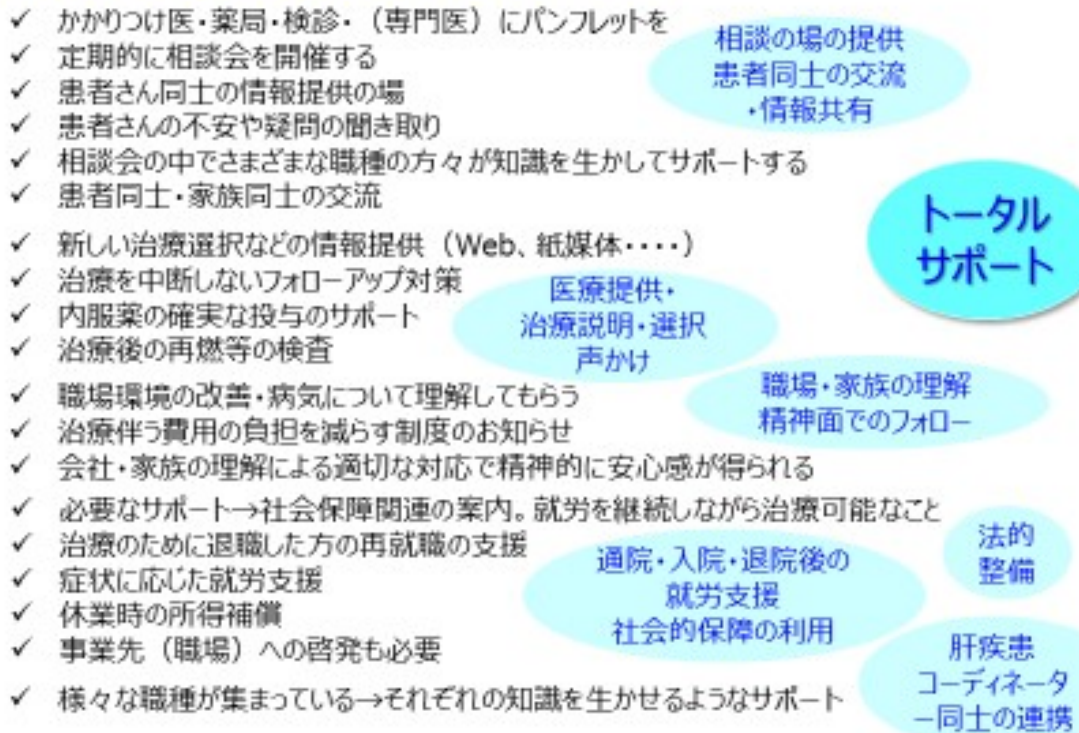
治療しないリス
クの啓発

相談会の開催
と積極周知

おかね・仕事の
不安の解消

肝疾患コーディネーターのグループワーク

テーマ3： 肝炎患者さんに必要なサポートは？



2) 多職種にわたる肝疾患コーディネーターによる、パネルディスカッション

医師・保健師・社会保険労務士・市町村担当者・県行政担当者による、パネルディスカッションを行い、現状把握し、肝疾患患者を支えるために必要な活動につき聴講者を含め討論した。これにより、検査「受検」・医療機関「受診」・専門医療機関での「受療」において、異なる立場・職種において広く情報共有が可能となり、互いに協力して活動が可能であることが明らかになった。この際には広く密に情報共有をすることや連携が重要であることが再認識された。

肝疾患パネルディスカッション

肝疾患に関する医師以外の医療従事者研修会

日本肝臓学会と山梨大学医学部附属病院肝疾患センターでは、肝疾患コーディネーターなど医師以外の医療従事者を対象に最新の肝臓病診療に関する講演会とともに、多くの医療従事者が集まって意見交換の場を設けるパネルディスカッションを開催いたします。ぜひ多くの方々の参加をお待ちしております。

1、基調講演「最新の肝臓病治療と肝臓学会の事業」

日本肝臓学会理事・山梨大学医学部第1内科教授
榎本 信幸 先生

2、特別講演「肝疾患センターの取り組み」

山梨大学医学部附属病院肝疾患センター長
坂本 稔 先生

3、パネルディスカッション

コーディネーター 山梨大学医学部附属病院肝疾患センター長 坂本 稔先生

肝臓病の患者さんのささえとなるために
(拠点病院/医師・山梨県・早川町・職域/肝疾患コーディネーター)

日時 **10月29日(土)** 午後2時～5時
会場 **甲斐市敷島総合文化会館 大ホール**

入場無料 定員200名 肝疾患に関わる方ならどなたでも参加できます

主催 日本肝臓学会 共催 山梨大学医学部附属病院肝疾患センター 後援 山梨県
問い合わせ先 山梨大学医学部附属病院肝疾患センター・第1内科 電話 055-273-9584 (直通)



①市民公開講座開催時の、「肝臓なんでも(ミニ)相談会」

肝炎について十分な知識を持たない一般住民に対して市民公開講座に相談会を併催した。

平成 29 年 9 月 10 日(土)14:00～16:00、

会場:山梨大学医学部臨床講堂

対応者:医師、弁護士、社会保険労務士

相談者:8名

②肝臓なんでも相談会の開催

広く一般住民を対象に、「肝臓なんでも相談会」を院外会場で開催した。開催場所は県内の中心部に位置する昭和町を、医療圏の異なる富士吉田とした。

第 1 回:平成 28 年 1 月 28 日(土)13:30～15:30、

会場:富士吉田市人材開発センター富士研修所、
富士 Calm

対応者:医師、保健師、社会保険労務士、弁護士
で対応

相談者:8名



第 2 回:平成 29 年 3 月 5 日(日)13:00～15:00、
会場:アピオ甲府

対応者:医師(肝臓専門医)、保健師、臨床検査技師、MSW 各 1 名、社会保険労務士、弁護士で
対応

医師や保健師ら 肝疾患者に助言

富士吉田で無料相談会

山梨大付属病院肝疾患センターは28日、富士吉田市新屋の富士C&Aで「肝臓なんでも相談会」を開いた。写真。



対象にした無料相談会。病気の治療、医療費、仕事、肝炎訴訟、食事などについて、医師や保健師、弁護士、社会保険労務士が専門的な視点で助言した。保健師は肝疾患患者の相談・支援を行い、適切な医療サービスの利用を促す「肝疾患コーディネーター」の資格所有者が参加した。

相談会は2015年に始まり、4回目。3月5日にも昭和・アビオで開催する。問い合わせは同センター、電話055(273)1111。

2017年1月29日山梨日日新聞

③就労支援相談会の開催

すでに、肝疾患が判明し治療中もしくはこれから治療する患者に対しては、おもに就労支援や肝炎訴訟の手助けとなるべく、院内で、「かんぞう(無料)相談会」として定期開催を行った。相談対応者は、社会保険労務士と弁護士に加え、各回異なる職種の肝疾患コーディネーターを配置した。開催日は肝臓専門外来が最も多く開設されている水曜日を基本とし、14:00～16:00、院内の会議室を会場とした。

第1回:平成28年10月19日(水)、
社会保険労務士、弁護士、臨床検査技師

第2回:平成28年11月22日(火)

社会保険労務士、弁護士、栄養士

第3回:平成28年12月21日(水)

社会保険労務士、弁護士、MSW

第4回:平成29年1月12日(木)、

社会保険労務士、弁護士、薬剤師

第5回:平成29年2月15日(水)

社会保険労務士、弁護士、看護師

相談者は、それぞれ、0名、4名、4名、1名、2名であった。

周知・広報のために、新聞広告および地域情報誌に記事を掲載した。広報によって、肝疾患(相談)センターへの問い合わせや相談も増加し、広

報の有用性も再認識された。

いずれの回も、対象者は異なるものの、相談内容は肝炎訴訟や障害年金な雇用保険など直接社会保険労務に関連することのみならず、栄養相談や肝炎訴訟など、病院や医院での診療現場のみでは対応できない内容がみられ、多岐に渡る相談内容がみられた。各相談会で起用した肝疾患コーディネーターも、相談に対応することで自身の役割を明確にすることができ今後の活動にも有効であるとの意見もみられた。

D. 結論

肝疾患患者の「就労支援」において、その実態調査の結果、問題は多岐にわたり、実際の困難さのほかに心理的・社会的な問題をも包括した複雑な状況があることが明らかになった。そこで、本県の特徴である、多職種にわたる「肝疾患コーディネーター」を相談対応者に起用して相談会を開催した。相談内容は多岐にわたり、全人的にそれぞれの置かれた環境・立場、職種に応じて対応することは重要であるが、患者・家族の求める様々な問題解決のために、知識・経験生かし、受検・受診・受療を「コーディネート」することが重要であることが示された。そこで、肝疾患コーディネーターに求められる活動内容を国や地方自治体が示すことで明確にするとともに、本研究班で、マニュアルを作成し、今後の活動に生かすことを可能とした。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- (1) Murata K, Asano M, Matsumoto A, Sugiyama M, Nishida N, Tanaka E, Inoue T, Sakamoto M, Enomoto N, Shirasaki T, Honda M, Kaneko S, Gatanaga H, Oka S, Kawamura Y, Dohi T, Shuno Y, Yano H, Mizokami M. Induction of IFN- λ 3 as an additional effect of nucleotide, not nucleoside, analogs: a new potential target for hepatitis B virus infection. Gut in press 2016
- (2) Kawai-Kitahara F, Asahina Y, Tanaka S, Kakinuma S, Murakawa M, Nitta S, Watanabe T, Otani S, Taniguchi M, Goto F, Nagata H,

Kaneko S, Tasaka-Fujita M, Nishimura-Sakurai Y, Azuma S, Itsui Y, Nakagawa M, Tanabe M, Takano S, Fukasawa M, Sakamoto M, Maekawa S, Enomoto N, Watanabe M.

Comprehensive analyses of mutations and hepatitis B virus integration in hepatocellular carcinoma with clinicopathological features. J Gastroenterol. 2016 May;51(5):473-86.

- (3) 坂本穰、肝細胞がんの診断とサーベイランス、日本放射線技術学会雑誌、72(1)、97-105、2016
- (4) 坂本穰、C型肝炎治療の変遷と現状、最新C型肝炎経口薬治療マニュアル(伊藤義人、中島淳監修)、診断と治療社 2-5、2016
- (5) 坂本穰、榎本信幸、抗ウイルス薬、新薬展望 2016、医薬ジャーナル 52、S-1、305-312、2016
- (6) 坂本穰、榎本信幸、C型肝炎 SVR 後の肝発癌関連因子、医学のあゆみ 299(4)、293-298、2016
- (7) 坂本穰、榎本信幸、耐性変異への対策、C型肝炎治療のための DAA の使い方(田中篤編)、92-100、2016

2. 学会発表

- (1) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸、治療反応性と薬剤耐性変異を考慮した C 型肝炎治療、第 102 回日本消化器病学会総会(シンポジウム)、2016/4/22、東京、S2-4
- (2) 鈴木雄一郎、坂本穰、榎本信幸、宿主遺伝子、ウイルスマーカーから考察する B 型肝炎病態進展、第 102 回日本消化器病学会総会(シンポジウム)、2016/4/22、東京、S4-7
- (3) 前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、HCV 治療に

- における DAA 治療の適正化-DAA 耐性変異の検出と臨床的意義について、第 102 回日本消化器病学会総会(パネルディスカッション)、2016/4/22、東京、PD2-7
- (4) 松田秀哉、坂本穰、榎本信幸、高感度 HBsAg 定量と従来法との比較による B 型肝炎臨床像の検討、第 102 回日本消化器病学会総会(パネルディスカッション)、2016/4/22、東京、PD4-2
- (5) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸、DAA による C 型肝炎治療と肝予備能の改善、第 52 回日本肝臓学会総会(シンポジウム)、2016/5/20、幕張、SY3-10
- (6) 鈴木雄一郎、坂本穰、榎本信幸、Deep sequence による Pre S 変異解析と HCC 発癌の関連性、第 52 回日本肝臓学会総会、2016/5/20、幕張、O-62
- (7) 佐藤光明、前川伸哉、松田秀哉、村岡優、鈴木雄一郎、辰巳明久、雨宮史武、中山康弘、井上泰輔、坂本穰、榎本信幸、ディープシーケンスによる DAA 耐性変異の解析、第 52 回日本肝臓学会総会、2016/5/20、幕張、O-152
- (8) 前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、HCV 排除後の肝病態進展・発癌におけるアルコール代謝関連 SNP 関与の検討、第 52 回日本肝臓学会総会、2016/5/20、幕張、O-234
- (9) 松田秀哉、鈴木雄一郎、今川直人、村岡優、佐藤光明、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、超高感度 HBs 抗原定量の臨床的意義、第 52 回日本肝臓学会総会、2016/5/20、幕張、P-57
- (10) 松田秀哉、村岡優、鈴木雄一郎、佐藤光明、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、ウイルス性肝炎以外の危険因子を背景とした肝細胞癌症例の臨床的特徴、第 52 回日本肝臓学会(シンポジウム)、2016/7/1~2、東京、SY2-3
- (11) 佐藤光明、松田秀哉、村岡優、鈴木雄一郎、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、ダクラタスビル+アスナプレビル併用療法との肝発癌の検討、第 52 回日本肝臓学会(ワークショップ)、2016/7/1~2、東京、WS1-1
- (12) 坂本穰、松田秀哉、村岡優、鈴木雄一郎、佐藤光明、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、榎本信幸、非ウイルス性肝細胞癌の新たな分類とその特徴、第 52 回日本肝臓学会(ワークショップ)、2016/7/1~2、東京、WS2-3
- (13) S. Maekawa, M Sakamoto, N Enomoto, Deep sequencing analysis of cancer-related genes in early hepatocellular carcinoma in the livers with and without hepatitis virus. International Session (Symposium)、第 20 回日本肝臓学会大会(JDDW2016)、2016/11/3、神戸 IS-S1-5_H
- (14) 鈴木雄一郎、坂本穰、榎本信幸、HBsAg 低値かつ HBcrAg 高値が HBV 肝癌の高リスク群である、第 20 回日本肝臓学会大会(JDDW2016)(ワークショップ)、2016/11/3、神戸 肝 W9-15
- (15) 佐藤光明、松田秀哉、村岡優、鈴木雄一郎、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、ダクラタスビル+アスナプレビル併用療法における肝細胞癌既往例の特徴、第 20 回日本肝臓学会大会(JDDW2016)、2016/11/3、神戸 肝 P-29
- (16) 坂本穰、松田秀哉、村岡優、鈴木雄一郎、佐藤光明、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、榎本信幸、C 型肝炎に対する治療法選

択と肝予備能の改善、第 20 回日本肝臓学会大会 (JDDW2016)、2016/11/3、神戸 肝 P-215

日本肝臓学会東部会(特別企画 1 症例に学ぶ)、2016/12/8、東京、SP1-11

- (17) 松田秀哉、村岡優、鈴木雄一郎、佐藤光明、中山康弘、井上泰輔、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、ウイルス性肝炎以外のリスク因子を有する肝細胞癌症例の臨床的特徴、第 20 回日本肝臓学会大会(JDDW2016)、2016/11/3、神戸 肝 P-246
- (18) 井上泰輔、松田秀哉、村岡優、佐藤光明、中山康弘、前川伸哉、坂本穰、榎本信幸、腹水治療の病診・病病連携、第 20 回日本肝臓学会大会(JDDW2016)、2016/11/3、神戸 肝 P-302
- (19) 坂本穰、前川伸哉、榎本信幸、DAA による治療法選択と肝予備能の改善と肝発癌抑止の検討、第 41 回日本肝臓学会東部会(パネルディスカッション)、2016/12/8、東京、PD1-14
- (20) 鈴木雄一郎、坂本穰、榎本信幸、核酸アナログ未投与例における各種 HBV ウイルスマーカー検出感度以下症例の検討、第 41 回日本肝臓学会東部会(パネルディスカッション)、2016/12/8、東京、PD3-4
- (21) 坂本穰、有菌晶子、榎本信幸、C 型肝炎撲滅に向けた地域を包括した総合的な取り組み、第 41 回日本肝臓学会東部会(ワークショップ)、2016/12/8、東京、WS3-2
- (22) 中山康弘、坂本穰、榎本信幸、非ウイルス性肝腫瘍の背景因子から見た特徴と鑑別、第 41 回日本肝臓学会東部会(ワークショップ)、2016/12/8、東京、WS6-2
- (23) 佐藤光明、坂本穰、榎本信幸、ダクラタスビル+アスナプレビル投与後に HBV が活性化した C 型代償性肝硬変の 1 例、第 41 回

H. 知的所得権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし